

## 人工知能×アダプティブ・ラーニング！クラウド型学習システム「すらら」 すららネットとチエルが共同開発した e-Learning ドリル教材を 小中学校向けに提供開始

株式会社すららネット（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：湯野川孝彦、以下すららネット）は、チエル株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：川居 睦、以下チエル）と、小中学校向けの e-Learning ドリル教材を共同開発し、提供を開始します。

### ■チエルと共同開発した e-Learning ドリル教材の概要

本教材は、チエルの教育クラウドサービス『CHIeru.net for School』において個別学習・家庭学習で取り組むドリル教材『基礎・基本定着ドリル』として提供します。

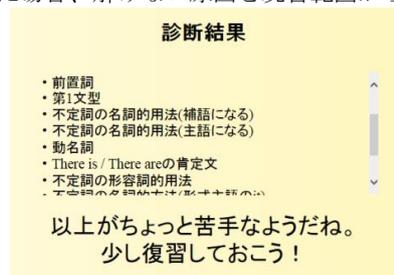
個に応じた学習（アダプティブ・ラーニング）機能で、児童生徒の理解度に応じた学習を支援することが可能です。一人ひとりの学力に応じて、出題される問題の難易度が変化する「出題難易度コントロールシステム」を搭載。「簡単すぎず難しすぎない」問題が出題されることで、児童生徒は適度な達成感を感じつつ自信を深めながら学習を進めることが出来ます。

また、自分が解けなかった問題について、過去に学んだ要素のうち、どこに原因があったのかを自動的に探索する「つまずき診断システム」も搭載しています。

- ▼生徒の学力に応じて難易度を自動調整する、出題難易度コントロールシステム（並べ替え問題が解ける生徒には記述式問題を出題）



- ▼生徒が問題を解けなかった時に、なぜその問題が解けなかったかを分析する、つまずき診断システム（今習っている単元を間違えた場合、解けない原因を既習範囲から自動的に判定、提示）



### ■提供するに至った背景

文部科学省の「教育の情報化ビジョン」では、2020年までにすべての学校で一人1台の情報端末を用いて授業を受けられるようにすることが目標とされており、全国の学校でタブレット等の ICT 機器の導入が進んでいます。併せて、総務省が公表した「教育 ICT の新しいスタイル クラウド導入ガイドブック 2016」に沿って、クラウドサービスを積極的に導入する学校・教育委員会が増え続けています。

すららネットは、これまで全国の私立学校や学習塾を中心にクラウド型学習教材「すらら」を提供し、スモールステップで分かりやすいインタラクティブな授業コンテンツや、一人ひとりの理解度に応じた出題調整や弱点診断ができる演習ドリルなどで「個に応じた学び」を実現してきました。

このたびは、公教育分野に強みを持つチエルと e-Learning ドリル教材「基礎・基本定着ドリル」を共同で展開することで、公立学校現場へのクラウド導入のニーズに対応してまいります。

<本件に関するお問合せ先>

株式会社すららネット 広報担当 e-mail: support@catchon.jp

TEL: 0120-441-370 FAX: 03-5256-8882

## ■クラウド型学習システム「すらら」とは

【学習範囲】 小学校～高校 3 年生までの学習指導要領に準拠

【対応教科】 英語・数学（算数）・国語

【利用者数】 約 40,000 名（2017 年 4 月末現在）

【特徴】

### ○Point 1 スモールステップでわかりやすいインタラクティブ授業

1つの単元は 10 から 15 分程度で、小さな階段を少しずつ上るような構成。

しかも授業は一方的ではなく、随所で先生役のキャラクターが問いかけを行い、問題に答えていくというインタラクティブスタイル。そのため、飽きることなく、適度な緊張感を持続し、楽しみながら学習を進めていくことが可能。

### ○Point 2 難易度調整や弱点診断ができる演習ドリル

一人ひとりの理解度に応じて出題される問題の難易度を調整する「出題難易度コントロールシステム」を搭載。「簡単すぎず難しすぎない」問題が出題されることで、達成感を感じ自信を深めながら、学習を進めることが可能に。また、何がわからないから問題が解けないのか理由を探る「弱点自動判別システム」も搭載。

### ○Point 3 現役の塾の先生による手厚いフォロー

いつまでにどこまでの学習をするかといった「月 1 回の目標設定」や、つまづいているところがないか「週 1 回程度の電話やメールでの進捗確認」など、継続して取り組めるよう現役塾講師がフォロー。また、クラウド型学習だからこそ、学習内容や正答率・解く速さなども詳細に把握できるので、お子様一人ひとりに応じたきめ細やかな学習指導が可能。

<参考>これまでの e ラーニング教材の大半は以下の 3 パターン

1. 動画配信型：カリスマ講師のレクチャービデオを視聴するタイプ  
「理解」にはすぐれているが「反復」の部分がないためやりっぱなしになってしまい、実力が身につかない傾向がある。また、一方的な説明となるため、比較的意識の高いお子様でない、集中力が続かない。
2. 問題集型：問題集の結果をパソコンに打ち出して結果分析をするタイプ  
「定着」にすぐれているが「理解」の部分がないため、学力の高い生徒でない、一人で学習を進めることが困難な傾向がある。
3. ゲーム型：携帯用ゲーム機などを使って学習するタイプ  
非常に楽しく学習できるが、単語など反復による暗記系が中心で、体系的な学習には不向き。

「すらら」はこうしたそれぞれの短所を補い、長所を相乗効果的に組合せた、理想の"次世代型教育システム"です。



## ■「すらら」の“アダプティブ・ラーニング”機能

生徒の解答結果から独自のアルゴリズムにより苦手部分を分析・特定し、生徒それぞれに最適化した学習すべき解説や問題を自動で提示する機能。学習者が苦手分野を自分で克服できるようにする。

## ■「すらら」の人工知能

AI が個々の生徒の学習データに基づき先生の代わりに生徒と対話を行う機能「AI サポーター」を搭載。慶應義塾大学 中室牧子研究室と行った共同研究の結果を受け、「努力を促す声掛け」を中心に変更し 2017 年 4 月 16 日より正式運用を開始。生徒の学習意欲の向上や学習習慣の定着を促す。

### ■ 株式会社すらら ネット 会社概要

- 設立：2008 年 8 月 ○ 資本金：13,795 万円 ○ 所在地：東京都千代田区内神田
- 事業内容：クラウド型学習システムの制作・提供及び運営コンサルティング、マーケティングプロモーション業務
- 会社 URL： <http://surala.jp/>
- 受賞歴：
  - ・第 9 回日本 e-Learning 大賞 文部科学大臣賞(2012 年)
  - ・Japan Venture Awards 2014 中小機構理事長賞(2014 年)
  - ・第 2 回「日本ベンチャー大賞」社会課題解決賞（審査委員会特別賞）（2016 年）
  - ・第 1 回 SDGs ビジネスアワード 2017 スケールアウト賞（2017 年）